

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390102550		
法人名	医療法人社団 岡山純心会		
事業所名	グループホーム 楽し愛		
所在地	岡山市北区吉宗706		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 25 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 12 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である”信頼される医療想いと優しさの伝わるケア私たちはそれを目指します”を実現すべく日々のケアに当たっています。
①質の高いチームケアを提供します。
②認知障害や行動障害を軽減するようにケアします。
③豊かな人間関係を保ち、地域住民の一員として社会生活を営んでいけるように支援します。
④開かれた施設を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新設の施設を少しでも納得がいくようにスタッフが、管理者と日々生懸命努力している姿を感じた。管理者の今まで培ってきた経験を礎に良い施策をいきなり導入するのではなく、会議などで職員の意見を聞き、成果に表しやすいものから導入していこうとするその時期を常時検討している。オンラインの良さは理解し、オンライン化は実践しているが、それに合わせて利用者ごとにあえて肌がふれやすいアナログも重要視することも、利用者のフラストレーションの解消になると気づき実践している。人的な魅力を十二分に発揮し組織的な理念に沿うような発展途上の施設である。若いリーダーに携えられ、任せれる生甲斐のあるGHであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念I: 3390102550					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を唱和して理念の共有実践に努めています。又職員の名札の裏にも理念を表記しており常に理念を意識するように努めています。	毎日の朝礼で理念を唱和して法人理念に沿って理解し、実践している。また、開設が浅い割に、介護理念は職員には浸透している。名札の裏に法人全体の理念を掲載しているので、いつでも見返すことができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響で現状参加や実施自体が自粛していますが、地域のお祭り、津高公民館による文化祭、草花会等への参加をしていました。町内会の清掃や草刈りにも参加しています。	町内会を活用しているため、吉宗地区との関わりが多い。地域の草刈りや溝掃除に管理者が参加することでさらに縁を深めている。今年度は、近隣の小学校より車いすの貸し出しの申し出があり、地域との関わり合いの継続ができています。コロナ以前は地域のお祭りにも参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、町内会長、民生委員の方が来られますが利用者の日常を見てもらっています。地域行事に参加する際は積極的に話をし認知症がある利用者様の事を理解してもらえるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の現状親行事活動の報告を行うと共に地域の皆さんから意見や要望を取り入れるようにしています。コロナウイルスの影響で、文書会議形式で内容をfaxで送り情報報告をしています。	コロナの影響により書面でのやりとりが変わった。以前は、町内会長、民生委員、包括、指導課、家族の代表が出席していた。会議にて、「子供SOS」の場にしてほしいとの要望を受けた結果、実施することとなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問や困りごとがある際は、電話で相談確認をしています。運営推進会議に事業指導課、地域包括職員に参加してもらい協力関係が築けるよう努めています。	市町村担当者とは、何でも話せる関係が築けている。わからないことを地域包括に相談したらアドバイスを頂いたり、認定申請の問い合わせをした際にも、丁寧に詳しく説明してくれたりした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での勉強会に参加して身体拘束への認識を深めるように努めています。	身体拘束はしていない。法人内で年2回、身体拘束委員会での勉強会があり、内容については申し送りで職員に伝えるようにしている。また、スピーチロックの事例を取り上げることで、課題や今後の方針を話し合えるようにしている。	全体のことはできているが、もっと細かいところ目やり、勉強会や研修会をしてみてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会に参加して、どのような事案が虐待に当たるのか認識して日々の業務の中で虐待が見過ごされることがないように努めています。職員カンファレンス時にスタッフ間でそのようなことが無いか確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員カンファレンスにおいて成年後見制度についての勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解し、納得して頂くために契約時に詳しく説明している。希望があれば入居前に家族に送付して入居前に目を通してもらい確認してもらうようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に気軽に話していただけるように努めています。契約時にも事業所に話しにくい事柄があれば遠慮なく行政に伝えて頂くように説明しています。	現在の面会は、基本オンラインで行っているが、直接会って話たいと希望する家族に対しては、医師と相談し、感染対策を確実にした上で面会を実施したこともある。その際に、顔を見ただけで涙するシーンも有り、直接表情を見て話すことの大事さに気づいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを実施して意見交換をしています。重要な事案は管理者から、法人に報告相談しています。	月1回、カンファレンスを行い職員の意見に耳を傾けられるようにしている。新しい職員が増えたことでもあるので、管理者は常にコミュニケーションをとるように心掛けている。カンファレンスの場以外でも意見が出ることがあり、風通しの良い職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修を兼ねた旅行や、親睦会での個人表彰など職員が向上心を持って働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の法人の勉強会に当日勤務者以外の職員が参加するようにしている。介護福祉士、介護支援専門員等資格取得への支援や外部研修への参加も支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して知り合った他施設の管理者、職員と交流してサービスの質を向上させていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面会時に困りごとや生活の要望を聞きケアプランを作成して安心して生活してもらえるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の困りごとや要望を聞きケアプランに生かせるように努めている。思いを理解してよい関係を築けるように担当職員、管理者を中心に積極的にアプローチして耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込み時に他のサービスの方が適していると思われた際には紹介させて頂き関係機関と連携するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事は、自主的にして頂けるように声掛けを実施しています。役割を持って自信を持って生活してもらえるように、職員が意識して出来ない事を援助しながらお礼を言えるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の状態を細目に報告相談している。また月に1度手紙を送って状態をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していたスーパーで買い物をしたり、自宅付近へのドライブ、自宅が気になる方には自宅へ様子を見に寄りたりとしている。	できる限り地域を散歩することで、地域との関わりを大切にしている。利用者から県外の娘に会いたいという要望があり、コロナの影響で会うことが難しいので、電話をしたら喜んでもらった。身近でできることを模索し関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮やレイアウトの変更等で利用者同士の関わりが取れやすいようにと支援している。利用者様の関係性を職員が共有して、利用者が孤立することがないように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に面会に出向いたり、必要に応じて家族と連絡を取っています。ケアマネや他施設職員に現在の様子を聞き、以前の状態、対応の説明をしたりと支援する事あります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人と話をする時間を作り、普段の会話の中からも本人の思いを把握できるようにと努めています。意思の疎通が困難な方は、しぐさや表情から本人の思いを感じて、家族と共に検討して把握するようにしている。	「今日は天気がいいですね～」とさりげない会話から入ることで話しやすい環境を作っている。話すことが難しい利用者に対しては、表情や仕草から読み取れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を伺うと共に、日常の生活を家族に伝えながら以前の様子を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握し、心身の状態の変化に早く気づき、早急に対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望が反映されたケアプランの作成に努めている。プランの実施を日々の記録に残して達成状況がわかるようにしている。	介護計画は入居時、1か月、3か月ごとに作成し、何かあればその都度見直している。各職員は担当制で、担当者に記入してもらったノートを基にケアマネジャーに確認してもらい、介護計画に活かせるようにしている。カンファレンスで出た意見をモニタリングに活かせるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事柄に応じ、色分けして記入している。ケアプランの実施状況も併せて記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の訴えや、家族様からの要望等に都度柔軟に対応できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として、町内会の行事に積極的に参加し地域の中に溶け込めるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	きらめきクリニックの往診が月2回あり、24時間対応してくれるためその事を本人、家族に説明して安心を得て貰っている。専門医については家族様対応で受診をお願いしています。	入居時に、ほとんどの家族がかかりつけ医に転移される。ドクターの訪問時に、椅子を準備する利用者があるくらい縁の深さが感じられる。他科への受診の際には、家族に連れて行って頂き、何かあれば、病院の看護師がすぐに来てくれるような関係が築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々生活の中で気になった事や変化を都度、看護師に報告し指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院される場合は、医療機関へ介護添書等の形で情報提供している。入院中は面会して医療関係者や家族と連絡を取り合って退院に備えるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に、重度化した場合・看取りについての指針を説明している。また随時相談に乗っています。	看護師が24時間常駐していないこともあり、看取りは行っていないことを入居時に説明している。終末期を迎えるにあたっては、提携している病院のドクターと相談をして、転医するかどうかを家族に決めて頂くようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備して、職員に周知徹底を図っている。また実際の事故報告書に沿って初期対応の改善点を話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施して、災害時の避難方法を皆が実施できるように努めています。	火災を想定した訓練を年2回実施した。訓練を実施した結果、緊急連絡網の活用や避難経路、消火栓の場所の再確認する必要性を感じたので、新たに検討や見直しを今後する予定である。	新設が故に、内部運営に力をいれていたもので、今後は施設を守るということで、防衛・防災に力を入れてはいかげんか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に、自己決定しやすいような声掛けを心掛けています。	呼称の基本は名字に「さん」付けで呼んでいるが、同姓の利用者がいる時は、ご家族の了承を得た上で、下の名前で「さん」付けで呼ぶこともある。排泄失敗時には、「ちょっとこちらへ来て～」や「お茶がこぼれているので!!」と言葉掛けをし、失敗した話はしないように心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案して自分で決める場面を作っている。(おやつ、飲み物の選択等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れは決まっているが、強制はせずある程度本人のペースを尊重して対応するようにしています。(起床時間、お昼寝等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりのおしゃれが出来るように努めています。髪の毛のカラーやお化粧品準備やお手伝いをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付け、配膳等出来る事は手伝ってもらい一緒に作る食事を心がけています。節分やお雛様等のイベント時には手巻き寿司や桜餅等皆さんに食べたいもの等を聞いて提供できるように努めています。	3食手作りで、職員も利用者と一緒に食事をしていました。夏には流しそうめん、節分には手巻き寿司を提供することで、季節感を味わっている。お菓子作りでは、プリン、ゼリー、ケーキ、ようかんとバリエーションが豊富で楽しみにしている利用者も多くいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や摂取総量をだまかに把握しており、水分チェック表に水分量の記入をしており、少ない方には声かけや、嗜好を考慮して提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けして口腔ケアを実施しています。十分なケアが出来ない方には介助して清潔を保つように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のあいまいな方も定期的にトイレ誘導して、トイレでの排泄をしてもらっています。オシメの方はいません。	できる限り自分でトイレに行くように誘導して頂くために、記録を取り共有して、言葉掛けをしている。トイレを汚してしまう利用者もいるが、こまめに掃除をすることで清潔感が保たれている。排泄失敗をしてしまうこともあるが、できるだけ布パンツで過ごせる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録から、排便状態を確認しています。水分摂取や運動をしてもらいスムーズな排便を促しています。必要時は協力医師と相談して適切な服薬で排便を促す事あります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回、入浴できるように支援しています。なるべく本人の希望に沿えるように努めている。当日の入浴希望には柔軟に対応するようにしています。	入浴は週2回。入浴を拒む利用者に対しては、先に入浴を済ませた利用者からの言葉掛けにより、入浴を円滑に誘導する工夫が見られた。入浴できない場合は、清拭して清潔感を保つようにしている。季節湯でゆず湯を提供し、足浴や手浴も必要に応じて行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整うように、日中の活動を充実させるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方される都度、お薬情報と照らし合わせ確認している。ケースにファイルしていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、出来る事をお願いして手伝ってもらっています。本人が好きだというものは優先して頂き、感謝の言葉を常に伝えて続けてもらえるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	陽だまりデッキには、気候次第ですが毎日出してもらうようにしています。歌を歌ったり談笑したりと過ごして貰っています。買物はコロナ感染症のリスクの為に中止しています。散歩、ドライブは人に合わない様に気をつけて実施しています。	外出が難しいので、ウッドデッキに毎日出て、風にあたるようにしている。コロナ以前は花火大会を見に行っていたが、今年度は手持ち花火や据え置き花火を用意し、利用者と施設内で花火大会を実施した。ウッドデッキを活用してやきそば作りをしたこともあり、身近でできる外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、本人でお金を持たれている方もいます。コロナが流行る前はコンビニ、スーパーにスタッフと買い物に行きお金を使われていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人用の携帯を持たれている方が2人います。利用者の希望に応じて対応するようにしています。家族様から電話があった際には本人に出てもらい声を聞いてもらうようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの席に着席してもテレビが見えるようにテーブルを配置しています。また季節を感じてもらえるようにレクリエーションでちぎり絵、塗り絵をしたり、庭にある四季折々の花を生けてもらいホームの中でも季節を感じてもらえるように努めている。	利用者は自分の時間を自由な場所で思い思い過ごしていた。ペットボトルのキャップを使って文字を合わせるゲームをしている人や、天声人語をメモしている人がいた。その人達は生き生きと、笑顔で過ごしていて、大きな窓から差し込む光のように輝いている姿が窺われた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間内でソファや椅子のレイアウトを配慮して利用者同士で話をしたり一人になれる空間作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、タンス等使い慣れた家具を持って来てもらいます。利用者の生活環境に合った部屋作りをしています。	昔を思い出しながら自作した塔や鳥の模型を飾っている利用者もいる。棚の上には、妻の遺影と手作りの神社と一緒に祀られていて、今でも自分を見守ってくれているかの如く、利用者自身、自然と手を合わせる居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ本人の意思を尊重したレイアウトになるように配慮している。一人一人の利用者のその時々状態に合わせて、家具やベッドの配置を随時変更したりしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390102550
法人名	医療法人社団 岡山純心会
事業所名	グループホーム 楽し愛
所在地	岡山市北区吉宗706
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 16 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 3 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関と提携したチームケア ・認知症を含めた利用者様の特性を受け入れ活かすことができるケア ・地域の方とふれあうことができたり気軽に訪問していただけるような開かれた施設 ・入居者様との信頼関係を築き、アットホームな雰囲気でも過ごしていただける施設 ・入居者様が季節を感じる事が出来る環境づくり
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新設の施設を少しでも納得がいくようにスタッフが、管理者と日々生懸命努力している姿を感じた。管理者の今まで培ってきた経験を礎に良い施策をいきなり導入するのではなく、会議などで職員の意見を聞き、成果に表しやすいものから導入していこうとするその時期を常時検討している。オンラインの良さは理解し、オンライン化は実践しているが、それに合わせて利用者ごとにあえて肌がふれやすいアナログも重要視することも、利用者のフラストレーションの解消になると気づき実践している。人的な魅力を十二分に発揮し組織的な理念に沿うような発展途上の施設である。若いリーダーに携えられ、任せれる生甲斐のあるGHであった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念I: 3390102550					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名札の裏に法人理念を記載していますが、職員がそれぞれが意識して仕事しているかは課題だと思います。	毎日の朝礼で理念を唱和して法人理念に沿って理解し、実践している。また、開設が浅い割に、介護理念は職員には浸透している。名札の裏に法人全体の理念を掲載しているので、いつでも見返すことができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、町内の清掃に参加しています。地域の方で団体でお花を見に来たいという依頼がありお受けしています。また、近隣の小学校から授業で使う為車椅子を貸して欲しいと依頼がありお貸しする事がありました。	町内会を活用しているため、吉宗地区との関わりが多い。地域の草刈りや溝掃除に管理者が参加することでさらに縁を深めている。今年度は、近隣の小学校より車いすの貸し出しの申し出があり、地域との関わり方の継続ができています。コロナ以前は地域のお祭りにも参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は現在行えていないが、書面会議にて運営状況を報告している。	コロナの影響により書面でのやりとりが変わった。以前は、町内会長、民生委員、包括、指導課、家族の代表が出席していた。会議にて、「子供SOS」の場にしてほしいとの要望を受けた結果、実施することとなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定申請は更新・変更共に行っており、利用者様の状況を詳しくお話しさせていただいています。	市町村担当者とは、何でも話せる関係が築けている。わからないことを地域包括に相談したらアドバイスを頂いたり、認定申請の問い合わせをした際にも、丁寧に詳しく説明してくれたりした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全のためやむを得ず施錠をしている方がおり、その方のご家族には同意を得ています。職員にも周知させています。	身体拘束はしていない。法人内で年2回、身体拘束委員会での勉強会があり、内容については申し送りで職員に伝えるようにしている。また、スピーチロックの事例を取り上げることで、課題や今後の方針を話し合えるようにしている。	全体のことはできているが、もっと細かいところにも目をやり、勉強会や研修会をしてみてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様が苦情が出た際や虐待と取れる状況を見たときには管理者に報告するよう職員に伝えており、見過ごすことが無いよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく、情報提供も出来ていない状況です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項や料金について納得いただけるよう説明を行い、疑問点はないかお尋ねしております。その場で回答できなかったことは確認後お伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の要望については職員と共有し、お応えできるよう努めております。	現在の面会は、基本オンラインで行っているが、直接会って話たいと希望する家族に対しては、医師と相談し、感染対策を確実にした上で面会を実施したこともある。その際に、顔を見ただけで涙するシーンも有り、直接表情を見て話すことの大事さに気づいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者に意見できるよう月に一度のカンファレンス時に話をしたり、随時職員の意見には耳を傾けています。	月1回、カンファレンスを行い職員の意見に耳を傾けられるようにしている。新しい職員が増えたことでもあるので、管理者は常にコミュニケーションをとるように心掛けている。カンファレンスの場以外でも意見が出ることもあり、風通しの良い職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれがどういう働き方をしたいかを把握し、実現できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加や実務者研修への参加をすすめています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修ではグループワークなどで一緒になった方と情報交換を行うことはありますが、発展的な活動はできておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安に気づき、話の傾聴を行い信頼関係をつくれるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にご家族の要望をお聞きしています。面会できない現在、お電話にて利用者様の体調報告をさせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前訪問を行っております。入居前にご家族の方、ケアマネージャーから本人の状況や困っている事をお聞きしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から本人が若かったころの時代の話を聴いたり、職員自身の生活の話をするなど、壁のないコミュニケーションが取れていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在ご家族とお会いできる機会が少なく、連絡する機会があればどのようにお過しかをお伝えしておりますが、関係が希薄となっている感が否めないため、連絡を取り合う回数を増やすべきか考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にこれまでの人間関係についてお聴きし、ご関係を継続できるよう協力いただいています。	できる限り地域を散歩することで、地域との関わりを大切にしている。利用者から県外の娘に会いたいという要望があり、コロナの影響で会うことが難しいので、電話をしたら喜んでもらえた。身近でできることを模索し関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションに消極的な利用者様もレクリエーションやテレビを観るときにでも輪の中に入れるようフォローしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方であっても支援をしていく心がけをしていきたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当ホームで生活できることに満足している方も居れば帰宅願望が途絶えない方も居られ、それぞれの意思を尊重した対応をしています。	「今日は天気がいいですね～」とさりげない会話から入ることで話しやすい環境を作っている。話すことが難しい利用者に対しては、表情や仕草から読み取れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から若い頃やお元気だったころの趣味・習慣などお聞きし、日頃できる事を見つける事が出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状況・体調は日々移り変わるので職員同士で情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員同士で意見交換を行い、他者の意見を参考にしながら本人にとって良いサービスが行えるよう努めています。	介護計画は入居時、1か月、3か月ごとに作成し、何かあればその都度見直している。各職員は担当制で、担当者に記入してもらったノートを基にケアマネジャーに確認してもらい、介護計画に活かせるようにしている。カンファレンスで出た意見をモニタリングに活かせるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	報告はできていても記録ができていないことがあるため、記録の充実を図りたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスにて職員同士で意見交換し、柔軟に対策を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は行えていませんが、町内及び公民館のイベントに参加していただいたことがあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族のご希望をお伺いし反映させるようにしています。	入居時に、ほとんどの家族がかかりつけ医に転移される。ドクターの訪問時に、椅子を準備する利用者があるくらい縁の深さが感じられる。他科への受診の際には、家族に連れて行って頂き、何かあれば、病院の看護師がすぐに来てくれるような関係が築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師に利用者様の異常を発見したら直ぐ報告するようにしており、助言に沿った対応を、または受診をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーと連携を取り、情報交換し退院につなげています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合主治医と相談し、転院が必要な場合転院先のケアマネージャーや看護師に相談しています。	看護師が24時間常駐していないこともあり、看取りは行っていないことを入居時に説明している。終末期を迎えるにあたっては、提携している病院のドクターと相談をして、転医するかどうかを家族に決めて頂くようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の経験により対応力に差があるため、勉強の機会が必要と感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップの掲示はしていますが、災害時の対応力にもっと自信を持てるよう取り組まないといけないと感じています。	火災を想定した訓練を年2回実施した。訓練を実施した結果、緊急連絡網の活用や避難経路、消火栓の場所の再確認する必要性を感じたので、新たに検討や見直しを今後する予定である。	新設が故に、内部運営に力をいれていたもので、今後は施設を守るということで、防衛・防災に力を入れてはいかげんか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人生活歴が異なる事により、どういうことで傷つくか、どういうことを話したいかが違い、その人に合った対応をしています。	呼称の基本は名字に「さん」付けで呼んでいるが、同姓の利用者がいる時は、ご家族の了承を得た上で、下の名前で「さん」付けで呼ぶこともある。排泄失敗時には、「ちょっとこちらへ来て～」や「お茶がこぼれているので!!」と言葉掛けをし、失敗した話はないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情から読み取れる感情に気づいたり、自由に発言が出来るよう、思いを汲み取った声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や年齢、生活歴によってペースが異なるので、その人に合わせた生活が出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が持つ習慣やこだわりは継続できるよう、ご家族の支援もいただきながら行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事を提供しています。季節や行事に合わせた料理をお出しすることもあります。利用者様と調理する事もあります。食事前の体操やレクリエーションで本日の献立を伝え、楽しみを感じて頂いています。	3食手作りで、職員も利用者と一緒に食事をしていました。夏には流しそうめん、節分には手巻き寿司を提供することで、季節感を味わっている。お菓子作りでは、プリン、ゼリー、ケーキ、ようかんとバリエーションが豊富で楽しみにしている利用者も多くいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が把握できるよう目を配ったり(必要な人は記録)、水分摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否が強く毎食後は困難な方もいらっしゃいますが、基本皆さんに毎食後の口腔ケアを実施していただき、必要な方は見守り及び介助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が減らせるようこまめな声掛けを行ったり、尿汚染があっても布パンツの習慣が継続できるよう支援しています。	できる限り自分でトイレに行くように誘導して頂くために、記録を取り共有して、言葉掛けをしている。トイレを汚してしまう利用者もいるが、こまめに掃除をすることで清潔感が保たれている。排泄失敗をしてしまうこともあるが、できるだけ布パンツで過ごせる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方は水分摂取量が少ないため声掛けをしたり、提供回数を増やしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の拒否が見られますが、無理せず時間や日にちをずらすなど臨機応変に対応しています。	入浴は週2回。入浴を拒む利用者に対しては、先に入浴を済ませた利用者からの言葉掛けにより、入浴を円滑に誘導する工夫が見られた。入浴できない場合は、清拭して清潔感を保つようになっている。季節湯でゆず湯を提供し、足浴や手浴も必要に応じて行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向の強い方には規則正しい生活が送れるような声掛けを行っています。高齢であるためまたは体調によるものから昼寝が必要な方は休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加はその都度周知できるよう皆に連絡し、内服後の変化も見てもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好きな事をご家族から聞き出し、楽しみを生活の中で見出せるよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍になる前はドライブにて利用者様が好みそうな場所へ連れて行き気分転換を図っていました。現在はウッドデッキにて日向ぼっこや施設内外周を散歩しています。	外出が難しいので、ウッドデッキに毎日出て、風にあたるようにしている。コロナ以前は花火大会を見に行っていたが、今年度は手持ち花火や据え置き花火を用意し、利用者と施設内で花火大会を実施した。ウッドデッキを活用してやきそば作りをしたこともあり、身近でできる外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解の元お金を持参されている方が数名いらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	淋しいと訴えられる方にはご家族様から電話していただけるようお願いしたり、手紙の投函を代行しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感のない清潔感のある共用空間を提供しています。	利用者は自分の時間を自由な場所で思い思い過ごしていた。ペットボトルのキャップを使って文字を合わせるゲームをしている人や、天声人語をメモしている人がいた。その人達は生き生きと、笑顔で過ごしていて、大きな窓から差し込む光のように輝いている姿が窺われた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	無理にレクリエーションに参加させたりせず、本人のその時の気分に対応しています。利用者様同士の仲の良さも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族様が新しい物を持って来られることが多いため、今後はご家族様へこれまでと違うアプローチをしてみたいと思います。	昔を思い出しながら自作した塔や鳥の模型を飾っている利用者もいる。棚の上には、妻の遺影と手作りの神社と一緒に祀られていて、今でも自分を見守ってくれているかの如く、利用者自身、自然と手を合わせる居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所(特にトイレ)がわかるときわからないときとあり、その時の状態にあった対応をしています。		